

平成16年度 第1回比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会

日時：平成16年8月27日（金）13：00～16：00

場所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

議事概要

委員会の目的について

委員会の目的について了承された。

座長選出

- ・本専門部会座長は、仲宗根委員（琉球大学 教育学部 教授）に決定した。

（座長挨拶）

地元の人達からの要望として原風景をどのように整理していくか、また、比屋根湿地をどのようにしていくのか、地元委員の意見を拝聴しながら沖縄らしい海岸整備を検討していきたい。

整備調査計画（案）について

- ・内容、スケジュール等について承認された。
- ・運動公園横の湿地は原風景に類似した良好な環境状態であることが確認された。

比屋根湿地・泡瀬地区海岸域の現況および課題等について

- ・湿地を利用して野鳥観察をする場所を整備するため、先進地も調査して参考にしてみたい。
- ・植生図等の資料が現況を正確に表していないため、湿地の現況を正確に把握すべきである。また、戦前からマングローブが生育しているという地元住民の話もあり、湿地内のマングローブが生育して来た経緯を把握すべきである。
- ・下水道整備状況は、地表流水や生活排水等の分水嶺毎の流水域を把握して汚れの出所を明確にし、湿地を汚しているのがどの地域かを特定・公表することによって周辺住民へ自覚させることが出来る。
- ・湿地整備後の管理については、市が県と連携して行政連絡会を立ち上げて検討する。
- ・湿地がどのように変遷したかを整理すべきである。
- ・湿地内のマングローブの生え方は他の自然に形成されたマングローブ林とは異質であり、鳥の生息に対して湿地と周辺域がどのような役割があるのか把握すべきである。また、鳥の餌場を作るために水路を整備して欲しい。

水路により水を行き渡らせることが水質浄化になると思うので検討したい。

- ・比屋根湿地を健全な湿地にしたい。満潮時にどこまで水が入ってくるか、潮位差がわかるデータを作成して欲しい。
- ・湿地の浄化作用のためにはマングローブがあったほうが良いのか、すべて撤去した方がいいのかを専門家の意見を聞きながら、検討していきたい。

- ・比屋根湿地内と海域との海水の出入りのデータが必要
- ・一日における汚濁負荷量の時間変化を把握すべきである。

住民意向調査等について

- ・湿地帯に対する国や県の望むイメージはあるのか。
上流からの汚濁を浄化する機能、野鳥が生息できる機能、親水性のある機能などについて意見を伺ったので、これらをどのように具体的にバランスよく配置するか今後検討していく。
- ・地域の住民の方々がどのような湿地を望んでいるのか把握できるようなアンケートを採って欲しい。